

今年の紅葉は10月下旬より11月初旬となります 素晴らしい秋山に是非お出かけ下さい 年末年始も蛭ヶ岳山荘にて予約を受け付けます

蛭ヶ岳山荘では、お客様を迎えるためスタッフ一同、登山者の安全対策を含め連絡網の充実に努めています。宿泊に際しては連絡先、ご自身の電話（携帯電話）、入山口等をお聞きし、山荘到着時間もお聞きしています。山荘に未着の際には、電話とご自宅へも連絡しています。夕方は、日暮れが早くなりますのでお早めにご到着下さい。山荘管理人 梶原 木全 090-252-3203直通

丹沢に於ける自然再生活動の私論

人生70余年かけて見えてきた丹沢の未来

NPO北丹沢山岳センター
理事長 杉本憲昭

自然の回復・30年ぶりに蛭ヶ岳山頂にハコネヒメボタルが舞う

昨年（平成24年）、蛭ヶ岳山頂でハコネヒメボタルが3匹舞うのが見られましたが、今年7月12日に10匹のハコネヒメボタルが舞うのが見られました。これは、山頂に植生保護の為シカ柵を設置してきた効果が徐々に表れ、ハコネヒメボタルの生育に不可欠な、くま笹が回復しこれまでの努力が実ったものと思われまふ。ハコネヒメボタルは横須賀市自然史博物館の故大場信義先生の調査によれば、くま笹の裏側に幼虫が産み付けられ朝露で育つていると言われています。ハコネヒメボタルは普通のボタルの三分の一程度の大きさで、繊細な光を発しているが、かつては夜空を焦がすほどの姿が丹沢全山で見られたと古老は語っています。ぜひ、ハコネヒメボタルの復活で、全山で舞っている姿を期待したいものであります。

丹沢大山での神奈川県自然再生計画が実を結びシカ柵・登山道整備が順調に進む

かつて丹沢山塊は見ても無残なシカの食害で草木が食い荒され、登山道は毎年荒れ放題となり放置されて来ました。神奈川県丹沢大山自然再生計画のもとで、各事業が多くの子算を毎年投じ、進められています。丹沢大山のかなりの部分で、自然再生の効果が表れて来ていますが、残るは検洞丸周辺と言われ、何年かの内に完了するだろうと言われています。勿論、自然相手では環境の変化等で計画通りに進まないことは多々ありますが、慎重に状況を見極め、効果が出る事業を続けることを期待するものです。

丹沢大山で自然再生工事が遅れているのは、関東大震災による大崩落地の改修

丹沢山塊では、ユーシンの熊木沢、蛭ヶ岳の仏谷、袖平山の岩水沢、大室山の南面等、東丹沢、北丹沢の広きにわたり、今も崩壊が加速度的に進行しています。毎年、崩壊が加速度的に進行し、対策がされていない状況に多くの登山者から心配の声がありますが、すぐに出来る対策を検討する必要があります。例えば、標高の高い崩壊地への、ヘリコプターによる樹種の種まき等すぐ対策出来ます。自然保護地域と言う理由で何もしないのは、責任回避と言われても仕方ありません。財源として神奈川県が徴収している環境水源税等有効に利用すべきとの指摘があります。

丹沢山塊は神奈川県民の水がめ、県民の命を育んでいる

全国で水不足が毎年のように言われているが、幸いに神奈川県だけは豊富な水がめをもち、水不足にはならない。先人の努力に敬意を表したい。特にこの水を支える相模原市緑区の住民に、自然を守る為に多大な負担をかけていることを都会の人達は目を向けるべきである。中国の古い言葉に「井戸に行きその水を飲むときは、それを掘った人の苦勞を知れ」とあり、このことを忘れてはいけない。

丹沢での危機、ブナを枯らすブナハバチ発生と里でのヤマビル被災

丹沢山塊では西丹沢、東丹沢、北丹沢のあらゆる地域でのシカの里山への出没に伴い、ヤマビルが広範囲にまき散らされ、大量のヤマビルが発生して、里では農業を断念せざるを得ない状況となり、東丹沢早戸川林道ではハイキングに行けない状況に陥っている。ヤマビルはマイナスになれば死ぬと言われており、落ち葉の除去等冬籠り出来ない対策、登山道の清掃等である程度、被害を防ぐ効果があると言われています。広大な山域では、それも不可能と思われるが、塩だけによる対策では困ったものです。このままです手をこまねいているだけでなく、効果のある研究、対策が待ち望まれています。

1人1人の自然再生への努力は微力でも、誰かがどこかでやっていくことが大切

広大な自然再生へのアプローチはほんの少ししか出来ない。しかし多くの努力が重なれば横への連鎖が広がる。今これらの作業が多くの地域で始まったと思われる。行政と連携したり、住民が共同作業したり、各ボランティア団体が活動したり、一つの灯が多くの輪に広がり、地域全体の自然再生活動として、根づいて行く事を期待したい。

丹沢再生

第2部 森と水

□1□

「もともとブナは、土が厚くて、ある程度湿度が保たれているところに生えてきた。さきで言ったように、丹沢でいえるのは、2000年代には、後継樹種が育たないままに、主幹線付近に多量に生えてきた。ブナは、90年代にならな小規模周辺以外にほとんど生えてきた穴が横たわった。丹沢のほんの一部に減った。これは、丹沢の代表として、2007年度から県の水源環境保全税が導入され、幅広い保全活動が動き始めた。丹沢、第2部では、ブナに代表される広葉樹林とスギやヒノキの人工林の現状や、水源税の効果、課題などを報告する。

進むブナの立ち枯れ

もいえるブナ類が立ち枯れてきたのが、県が中心となって

天然林 上

蛭ヶ岳山頂付近の土地被覆状況



※県自然環境保全センターのデータから作成



塔ノ岳から丹沢山へ向かう途中の稜線上で見られる立ち枯れ

丹沢登山で一度は訪れたという、山名が華やかなのが神奈川県最高峰「蛭ヶ岳」（1673m）だ。大倉から蛭ヶ岳への人気ルートは、塔ノ岳・丹沢山を経由し、検洞丸から西丹沢自然教室へ下山するコースだ。かつてはブナ林に覆われていた山頂周辺は、今やブナの立ち枯れが進み、草地化が進んでいる。森の変化が目に見えて進行しているルートでもある。蛭ヶ岳から検洞丸へ向かう途中、白ケ岳への下りは、毎年のように滑落事故が起きていた危険箇所。過信せず、荒天時には引き返すくらいのつもりで向かい

ビジターセンター発 丹沢新発見

▶14▶

ゆとりある小屋泊で

最高峰・蛭ヶ岳

ルート上には、通年営業の小屋（塔ノ岳「尊山山荘」、丹沢山「みやま山荘」、蛭ヶ岳「蛭ヶ岳山荘」）もあるため、山小屋泊でゆとりを持って計画してほしい。小屋泊の魅力は、なんといっても、夕暮れや早朝の山頂からの景色だ。丹沢主脈から西には西丹沢の山々や南西に箱根、それらの奥には大きくそびえる富士山が美しい姿を見せてくれる。ちょうど山々を照らしながら、富士山に夕日が落ちていくのだ。

上空から蛭ヶ岳山頂と西の山々を望む



霧が発生しやすい丹沢山塊は、夕暮れ時に雲海が見られることも多い。雲海の中に西丹沢の山々が島のように浮かび上がり、霧がまるで滝が流れるようにゆっくと膝部を越えていく。山の凜とした空気に包まれていると、そこは別世界。刻々と

を傾ける小屋の夜は、味わい深いものになるだろう。

登山口の大倉には「秦野ビジターセンター」、下山口には「西丹沢自然教室」がある。表丹沢側の情報は秦野ビジターセンター、西丹沢側は西丹沢自然教室が詳しい。木のぬくもりが感じられる館内で丹沢の展示を見ることもできるので、ぜひ立ち寄っていただきたい。

（県公園協会・秦野ビジターセンター）
「交通」小田急線「丹沢」駅から大倉行きバスで終点下車。大倉尾根、丹沢山を経て蛭ヶ岳まで徒歩6時間半。蛭ヶ岳から検洞丸を経てツツジ新道で西丹沢自然教室まで5時間半。健脚向き。

※所要時間は目安です。実際の登山には詳しい登山地図などを利用してください。